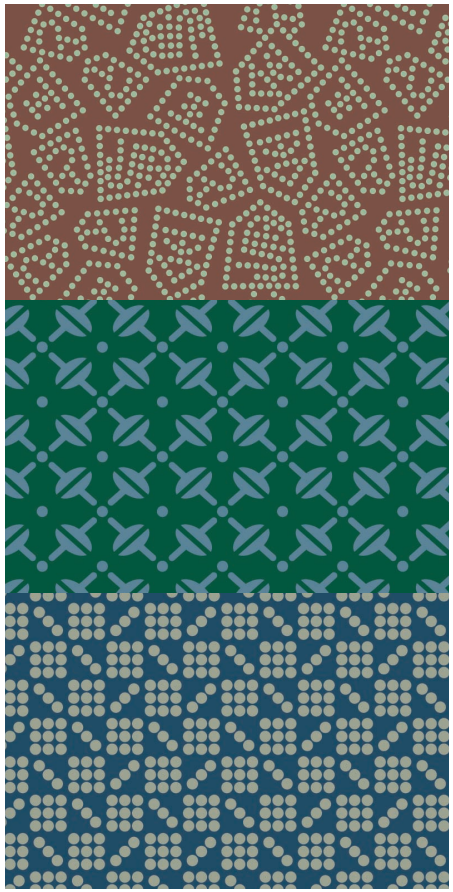
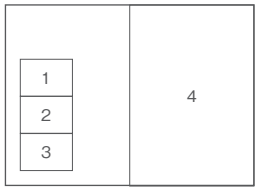
CD 01 023〜026

遊び【あそび】

文様の世界でも生かされている「うがち」や「みたて」

浮世絵、戯作、落語、滑稽本。江戸庶民の趣味は、どこかに生真面目さをきらう風潮があります。これは、人をユーモア感覚のよさで推し量る成熟した国に通じるものがあります。「うがち」とか「みたて」もまた、江戸庶民の高尚な趣味であり、それは言葉のみならず文様の世界でも生かされています。





1 成金
素直に将棋の駒の正面を使うのではなく、「裏」を絵柄にし、「成金」と名づけるところにひねりがきいています。

CD 01_023
檜皮色（ひわだいろ）

2 独楽（こま）ならべ
「独楽」の並べ方が、整然としながら方向を変えているところに、類型を避ける機知があります。

CD 01_024
萌葱色（もえぎいろ）

3 賽の目文様
賽子（さいころ）は、神占の道具。対応する両面の数の和が7になるので、9の目はありません。9個の○はさいころの四角の表現でしょう。

CD 01_025
紺色（こんいろ）

4 江戸凧
江戸凧は手描きの浮世絵凧。一方の奴凧、「龍」文字凧とともに有名です。これは、浮世絵凧の模写です。絵柄は「波兎」。謡曲「竹生島」に『兎も波を走るかおもしろの……』とあり、それを素にした「波兎」の文は家紋や文様に展開されています。

CD 01_026
檜皮色（ひわだいろ）
朱色（しゅいろ）